

経営比較分析表（令和4年度決算）

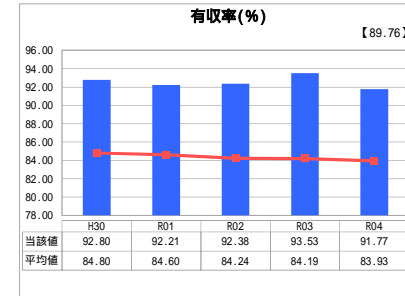
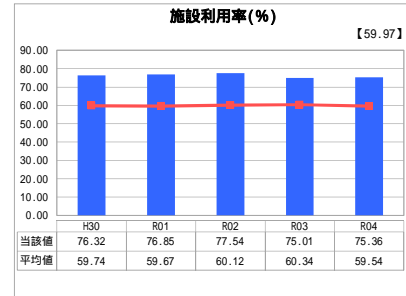
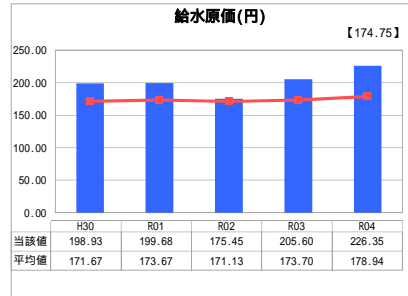
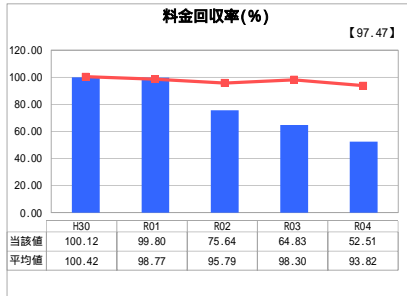
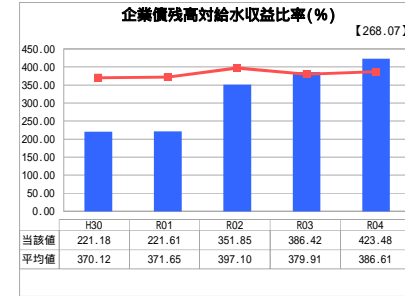
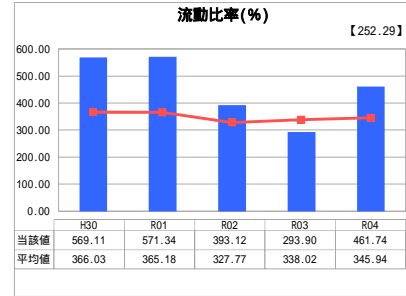
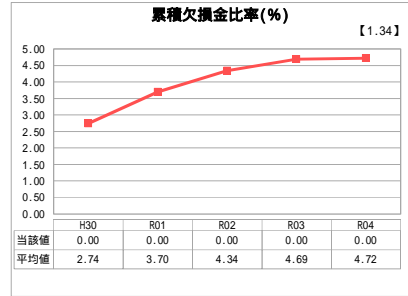
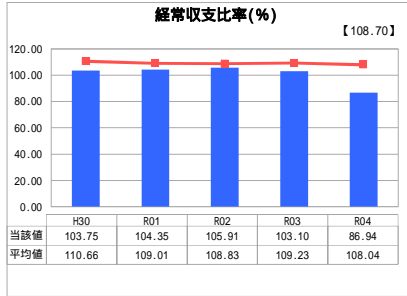
兵庫県 加西市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	75.76	98.52	3,055	

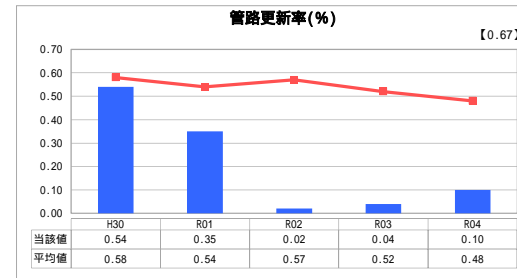
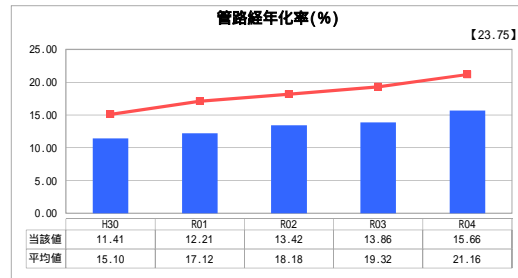
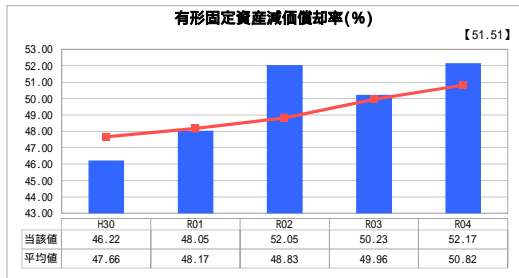
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
42,265	150.98	279.94
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
41,471	109.05	380.29

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
● 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」については、令和3年度にかけて、おおむね横ばいで推移していましたが、令和4年4月より水道料金の10%値下げを実施したため営業収益が減少し、数値が下降しています。

「料金回収率」物価高対策として実施した、半年間の家庭用の全額と業務用の基本料金分の減免の実施に加え、水道料金の10%値下げによる供給単価の減少、受水費の増加による給水原価の上昇により、令和3年度に比べ下降しています。

「有収率」は近年計画的に漏水調査、修繕を実施した結果、類似団体を大幅に上回っています。

「企業債残高対給水収益比率」については、令和2年度から令和4年度にかけて上昇してきましたが、これは、近年、県営水道を市内全域に配水するための施設を建設したため、企業債残高が増加したためです。

「流動比率」については、令和3年度に比べ上昇していますが、長期貸付金の償還開始による流動資産の増によるものです。

「累積欠損金比率」については、類似団体と比較して悪い数字ではありませんが、今後は、水需要減少による給水収益の悪化や施設の更新需要の増大等により、比率は徐々に悪化していくことが懸念されます。

2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」については近年までポンプ場の建設を行っており、投資の平準化により令和4年度まで管路への投資を抑制していたため、数値が上昇しています。

「管路経年化率」については、「管路更新率」にあるとおり、近年配水池・ポンプ場の建設のため、投資の平準化を実施したため比率が上昇していますが、令和3年に見直しを実施したアセットマネジメントに基づいて優先順位の高い施設から順次計画的に更新を行うとともに、費用が一時的に集中しないように更新事業の平準化を行っています。

全体総括

水道事業をとりまく環境は、人口減少や節水意識の向上等により更に厳しさを増しているところです。

今後、老朽化した施設が順次耐用年数を迎えることから、施設の更新、耐震化が今後の課題となっています。しかしながら、市内全域にある施設の更新、耐震化には多額の資金が必要となります。

収益の大幅な上昇は見込めないことから、施設をこれからの人口に見合った規模にダウンサイジング(統合)し、維持管理費などの経常経費を削減することで、財源の確保を行っていく必要があります。

今後は、なお一層経営の効率化を行い、持続可能な事業運営を図ります。